



## 第 29 回

### 究極の資源—市民の夢・アイデア

平成 29 (2017) 年 6 月

巷間にただよう“市民の想い”をくみ上げ、それを“資源”として“活用”する。即ち“市民の想い”を収集し、社会資本の充実に役立てるのが“夢アイデア事業”の狙いです。

一般に“資源”とは、生活や産業等の諸活動に利用可能なもの、と定義されています。であれば、そもそも実体のない“市民の想い”が資源たり得るのでしょうか…。


ここで「道の駅」の誕生のいきさつを考えてみましょう。四半世紀前、中国地域づくり交流会で披露された「道は渋滞すると困る。用を足すところもない。道にも駅があればいいのに！」という一主婦の想いを、プロである道路管理者が聴いて、「道にも駅か！」と膝を叩いたのがきっかけでした。産、官、学、一般市民が隔てなく参加する交流会であればこそ、市民とプロとの出会いも生まれたのです。

このように、市民の想いはプロにかかると大化けしたりするし、実現すれば新しい社会的価値を生み出すものです。そういう意味で、市民の想いは、社会開発に利用可能な、しかも無尽蔵の資源といえそうです。無から有を生じ、開発費もほとんどタダ。こんなありがたい資源はない！これが“究極の資源”と呼んだ理由です。

夢を“実現化する”、そこにプロの出番があります。方程式「市民の想い×プロ力 = 未来社会創造」といえば言い過ぎでしょうか。

市民の想いに知恵が潜むという、いわば「叡智在民」という思考は、上意下達に慣れたわが国には馴染みがないかもしれませんが。しかしトリクルダウンの「棚からぼた餅」期待主義と、自分達の叡智活用第一主義のどちらが自主自立の地域づくりに資するかは明らかでしょう。このことを社会実験としてトライしてきたのが夢アイデア事業であったともいえるわけです。夢アイデア手法によってさらに“究極の資源”が活用されるよう願ってやみません。

なお、本事業は 2016 年 11 月、土木学会“市民普請大賞”の準グランプリ賞の荣誉に浴しました。因んで、土木学会誌 2017 年 4 月号、会員の声欄に本コラム同様趣旨の投稿をさせていただいています。(続く)



針貝 武紀

初代夢アイデア企画委員長 現・特別顧問